

令和4年度 学校マネジメントシート

【様式】

学校名（ 相可高等学校 ）

1 目指す姿

| | | |
|------------|---------------|--|
| (1) 目指す学校像 | | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の夢をかなえる学校 ○地域と共に歩む学校 ○教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校 |
| (2) | 育みたい 児童生徒像 | <ul style="list-style-type: none"> ○夢の実現を目指して自律的にかつ誠実に学び続けることができる生徒 ○変化や困難に対して柔軟にかつたくましく対応することができる力を有する生徒 |
| | ありたい 教職員像 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学力向上に努めるとともに、生徒の人権・健康・安全を守ることができる教職員 ○同僚性を発揮するとともに、互いに支えあうことができる教職員 |

2 現状認識

| | | |
|-----------------------------|---|---|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | 生徒、保護者、地域社会 ○学習指導・生徒指導・進路指導、部活動指導の充実 ○地域活性化への貢献 ○卓越した取組とその成果の継承学習指導・生徒指導・進路指導・部活動指導の充実 | |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | 連携する相手からの要望・期待 | 連携する相手への要望・期待 |
| | 生徒：わかる授業、学力の定着・向上、部活動の充実、希望進路の実現、安心して学べる環境 保護者：学習指導・生徒指導・進路指導の充実 地域社会：地域活性化への貢献 関係企業・団体等：話題性によるイメージの向上 | 保護者：学校教育への理解・協力・支援、家庭での指導 地域社会・企業等：教育活動への理解・協力・支援、学習成果を発表・活用する機会の提供、部活動指導等への支援（地域部活動の設置） |

| | |
|-------------------------|---|
| <p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍での学習指導について、感染症ガイドラインにのっとりながら様々な工夫をいただきたい。 ○定員割れは学校だけの問題ではなく、地元の問題でもある。定員割れを起こさないための至急の妙案を地域もともに知恵を出し合い、地元もできるだけ協力しなければならないと考える。また、中学校との連携について、中学1・2年生といった早い段階からはじめる、連携先中学を拡げることで、進学目的を明確にした進路選択に繋がり、入学希望者の増加に繋がるのではと考える。 ○土木専門職のインターンシップは受け入れ側の学びにも繋がるので可能な限り実施してもらいたい。 ○学校教育の本質に立ち戻り、学校とは生徒と教師の信頼関係が何よりも重要で、この1点に絞り、人間教育を中心に、日頃の教育活動を追求していけば、その目的は達せられ、同時に周囲の理解も得られると思う。そのためには、日頃から生徒との接触を密にし、生徒の本音を引き出し、生徒及び家族との人間関係を構築し、信頼を築いていくことが大切ではないかと思う。 ○管理者が多くの課題を交通整理しながら教職員との真の人間関係を構築し、互いに協力しながら、学校教育の目的の達成を目指すべきだと思う。「学校が変わるのは、教職員がまず変わるべきで、そうすれば、生徒が変わり、学校全体が変わる。」と考える。 ○コンプライアンス研修で、校内の先生方の様子はどのように変わったのか。 |
| <p>(4) 現状と課題</p> | <p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学力をより一層確実に定着・伸長させるために家庭学習の在り方について研究し、実施する必要があります。(昨年度からの継続課題) ○新学習指導要領における観点別学習状況評価が本年度から義務化されています。「学力の3要素」を育む指導ができているのか、指導の在り方の検証が必要です。 ○一人一台端末を教育活動の中で効果的に利用していくため、研究の継続が必要です。 ○登下校時の交通マナーや不審者対応訓練については警察との連携強化が必要です。また、勤務時間外の校外での登下校指導については在り方の検討が必要です。 ○普通科について、希望進路の90%以上が進学となる中、職業学科がある本校普通科を選んでよかったと思えるキャリア教育の推進が必要です。 ○4学科設置する学校ならではの多様な進路先(大学、公務員、就職)への確実な希望実現が求められています。 ○授業、学校行事、部活動、全ての教育活動において、新型コロナウイルス感染対策の徹底が必要です。(昨年度からの継続) ○求められる専門教育を継続していくために、高度で専門的な資格の指導ができる教員の育成が必要です。 ○本校独自の地域との連携や研修会等について、コロナ禍であっても実施可能な方法を検討する必要があります。 |
| <p>学校運営等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒募集について。令和4年度入学者選抜では2つの科が定員割れとなりました。地域にとことんこだわった教育を特徴としている本校で、コロナ禍のため様々な取り組みに制限がかかる中、本校の特色ある学びをいかに情報発信していくかが課題です。 ○急激な社会の変化に柔軟に対応できるよう、教職員の研修の機会を保障していく必要があります。 ○信頼される学校であるため、様々な不祥事案を自分事として考えられるよう、教職員の意識改革を進める必要があります。 ○働きやすい職場環境づくり 様々な業務について、質を重視した見直しと、優先順位を意識した取り組みを行い、教職員がライフワークバランスを図りつつ、やりがいを実感できる学校づくりを進める必要があります。 |

3 中長期的な重点目標

| | |
|-------|---|
| 教育活動 | <p>○「生徒の夢をかなえる学校」に関して 「主体的・対話的で深い学び」の実施により、生徒がこれからの社会で必要となる学力や能力を確実に身に付け、地域社会やグローバル社会において活躍しようという意欲を持ちつつ希望進路の実現を果たしている。</p> <p>○「地域と共に歩む学校」に関して 各学科がそれぞれあるいは相互に連携を図りながら、本校ならではの特色ある取組をグローバルな視点を持って行い、地域の活性化に貢献している。</p> |
| 学校運営等 | <p>○「教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校」に関して 授業・分掌業務・部活動指導等について、同僚性を発揮するとともに、協力・協同して取り組む体制が確立するなど、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し、活気のある明るい組織風土が醸成され、多くの生徒・保護者・職員が学校に満足している。</p> |

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|------|--|--|----|
| 学習活動 | <p>○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成します。また、必要な図書館資料等を提供します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部署、教科・学科と定期的に連絡・意見交換を図り、取り組み内容や様子を共有する。 年度末実施のスタディーサポートにおいて、80%以上の生徒が教科計GTZ(学力)でC以上となる。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日の家庭学習時間が昨年の数値(36.6分)よりも5分増加する。 図書館の貸出利用率60%。(昨年度51.9%) <p>○生徒自らの学びを高める学校時間の確保に努めます。(1年)</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びを実践につなげる。学びの記録を毎学期入力し結果を確認する。(1年) スタディサプリの積極的な活用。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期ごとの学びの記録入力100%(1年) スタディサプリのデータを活用したとする普通科生徒の割合1年50%、3年60%以上。 <p>○ICT機器の積極的な活用を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒に向けてChromebookやClassroomの利用 | <p>・平日の家庭学習時間について、平均時間は40.2分で、昨年度より3.6分増でした。土日祝日の家庭学習時間は53.4分で3分増、定期テスト中の家庭等での学習時間は3時間32.4分で14.4分増でした。引き続き、各学年、分掌、教科と連携し、改善を図る必要があります。</p> <p>・今年度の生徒図書貸出率は、2月1日時点で54%です(昨年度末は、52.9%)。60%越えには、計算上あと30人ほど新規での貸出が必要です。特定の時期に図書便りとともに催し物などを実施できれば達成可能かと考えられます。</p> <p>(1年生)</p> <p>・学びの記録は、1・2学期末毎に記入を促す程度にとどめ、3学期末に全員提出することにしました。スタディサプリアは模試の結果を基にした年2回の連動課題配信により、生徒が自身の弱点に気づき学習を深めました。</p> <p>・スタディサプリアの日常的な動画視聴は各学年とも数名、データ活用は、1年17.6%3年23.9%にとどまっています。</p> <p>・端末の配付時に利用についての説明会を1回行いました。</p> | |

| | | |
|-------------|---|--|
| <p>生徒指導</p> | <p>上の注意点等説明会を年2回以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科・科目でICTを活用した学びの実施。 ・一人一台端末の有効活用と問題点の抽出。(1年) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科・科目でのICT機器を活用した学びの実施率：100% ・一人一台端末の利用で、「学習効果が向上したと感じる」生徒の割合50%以上(1年) <p>○基本的な生活習慣の形成と規範意識・公共心を育む指導・援助を行います。</p> <p>○非行やいじめなど問題行動の未然防止と早期発見の取り組みを行います。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導も兼ねた朝の挨拶運動を毎日実施。 ・遅刻した生徒の人数を把握し、各学期5回以上となった生徒には、事情の確認と保護者との連携を行い生活習慣の改善に努める。 ・公共のマナーなルールについて共通認識を図るため、HR連絡を毎月1回以上発行する。 ・関係機関の講演会などを各学期1回以上実施し、問題行動の未然防止に努める。 ・各学年年間2回以上いじめアンケートを実施し、いじめの未然防止や早期発見を目指す。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正当な理由無く5回以上遅刻した生徒の人数各学期3人以下。指導した生徒が遅刻改善100%(次学期の遅刻数5回以下) ・問題行動の件数昨年度以下(18件) ・いじめアンケートの回答率80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・各教科・科目でのICT機器を活用した学びの実施率：91.4% ・今年度GIGAスクールサポーターによる教員向けの研修会を2回実施しました。 ・一人一台端末の利用で、「学習効果が向上したと感じる」生徒の割合62.3%でした。学習効果の向上につながる利用を引き続き検討していきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・全ての授業日で教職員を5人ずつ割当て、8時～8時25分の間、交通安全及び挨拶運動を実施しました。 ・HR連絡を33回発行し、ルールの徹底・交通安全・持ち物の管理・犯罪被害に巻き込まれないための注意喚起等を行いました。 ・全学年を対象に1学期「薬物乱用防止講話」、2学期「ネットトラブル防止講話」を実施しました。 ・通院などの正当な理由無く遅刻5回以上の生徒1学期1名・2学期7名・3学期0名。前述生徒8名の内、次学期も5回以上遅刻した生徒1名。遅刻改善率は87.5%でした。 ・問題行動の件数29件。昨年度の1.6倍に増加しています。 ・1、2学期とも全学年を対象にいじめアンケートを情報機器のアンケート機能を用いて実施しました。回答率は1学期74%、2学期45.2%。 |
| <p>進路指導</p> | <p>○3年生全員の進路希望実現を目指します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査に基づいた生徒が希望する企業との情報交換100%。 ・入試情報の収集と共有。 ・就職講話、総合型選抜・学校推薦型選抜対策講座の実施。 ・総合的な探究の時間、LHR等を活用した進路指導の実施。 <p>【成果指標】</p> <p>3年生全員の希望進路実現</p> <p>○生徒の主体性を涵養し、生徒自身が能動的に進路実現を果たせるよう、3年間を通じたキャリア教育の充実を図ります。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業、進路ガイダンス、看護医療ガイダンスの充実。 ・全学科での実力テスト実施：2回以上。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望する企業との情報交換は100%行えました。学校斡旋を希望した就職希望者全員の内定が得られるなど、順調に生徒の進路希望を実現することができました。 ・推薦入試における文章指導、面接指導、出願指導などを行いました。12月からは共通テスト対策講座を開講し、引き続き一般選抜で受験していく生徒の希望進路実現に向け支援を続けました。 ・地元の大学、短大との出前授業、各学年との進路ガイダンスを通じ、生徒の進学への意識を高めました。実力テストを実施し、英・数・国の基礎学力の充実に力を入れました。また進路講話で模試の活用、勉強法などの話をしました。 ・スタディサプリの活用のための職員研修を実施しました。 ・普通科3年生において、面接や小論文 |

| | | | |
|------|--|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・スタディサプリの活用（普通科）。 ・進路だより等での情報発信：各学期 1 回以上。 <p>【成果指標】 5 年後 10 年後 20 年後の自分の姿を意識していると回答する生徒の割合が学年進行で上昇 ○保護者への進路情報発信に務めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務部や学科と連携した保護者会の実施、参加。学科保護者会への参加：1 回以上 ・保護者向けの進路情報の発信。 <p>【成果指標】 希望進路実現のための流れが理解できたとする保護者の割合 70%以上。</p> | <p>対策にスタディサプリアを活用しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信について、必要に応じクラスに発信をしました。 ・生徒アンケートにて「将来の姿を意識している。」と回答した生徒は、1年 66.7%、2年 86.2%、3年 78.7%で、必ずしも学年進行で上昇とはなっていません。将来を見据えたキャリア教育を推進する必要があります。保護者に対して、3 学年では 5 月の保護者会で就職進学についての説明を行いました。特に就職に関する質問も多く、その後の生徒の動きは早かったです。全保護者対象アンケートでは 78.1%の保護者が「希望進路実現のための流れを理解できた。」と回答いただきました。 | |
| 保健指導 | <p>○生徒が健康上の課題を自己認識し、自身の生涯にわたってより健康的な生活を送るための実践力を身につけるよう、適切な援助や啓発を行ないます。また、健康に関する誤った情報や不確かなものに影響されないよう、正しい知識を身につけるための学習の機会を提供します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期の初めと終わりの保健だより発行により、長期休暇明けの生徒への生活習慣の改善を図る。 ・毎授業日の健康観察実施により、自身の健康管理と新型コロナウイルスをはじめとする各感染症予防への意識向上につなげる。 ・学期毎のカウンセラーだより発行を通じて、校内の教育相談体制の周知と、ヘルスカウンセリングの充実に努める。 ・各学期初めと終わりの大掃除実施や、毎日の掃除でのゴミ分別の指導を通じて、美化・衛生意識の向上と校内美化環境の維持・改善に努める。 <p>【成果指標】 規則正しい生活、感染症予防を意識していると回答する生徒 70%以上。 大掃除各学期 2 回以上実施。 ゴミ分別の実施 100%</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保健だより発行 17 回。 ・校内放送や配布物、掲示物、各行事の保健部からの連絡などを通して、感染症予防と健康管理の啓発を行いました。 ・カウンセリングだより発行 3 回 ・毎日のオンライン体調確認アンケートの配信により健康観察を実施し、生徒の健康意識増進に努めました。年度末アンケートでは「規則正しい生活、感染症予防を意識している」と回答した生徒は 97.1%となり、生徒達の自己管理意識の向上が確認できました。 ・環境美化委員会の開催や環境デーの取り組み等を通じて、美化・衛生意識の向上に努めました。年度末アンケートでは、「ゴミの分別につとめた」という回答が 97.4%となり目標の 100%にはわずかに届きませんでした。次年度への継続課題となります。 | |
| 専門教育 | <p>○資格取得や各種大会・発表回答への出場を推進し、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図ります。</p> <p>○他教科・他学科・地域との相互連携を図り、地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指します。</p> <p>○外部講師による生徒・職員向け研修会を実施し、専門性の向上を図ります。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格の丁寧な案内と補習等のサポート。 ・他教科・他学科・地域との連携 | <p>(生産経済科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業クラブ活動に日頃から力を入れ、東海大会・県大会で優秀賞を受賞しました。意見発表会は全国大会で優秀賞を受賞しました。新たに 2 つの発表会に参加し、賞を獲得しました。 ・資格取得に向けサポートを行いました。 ・外部講師を招き、スマート農業やプリサーブドフラワーなどの研修会を複数回実施しました。先進地見学研修では膜耕栽培の技術を知るなど専門性を高めました。 | |

| | | |
|---------------|--|--|
| <p>社会性の伸長</p> | <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他教科・他学科・地域との連携の実施率100%。 ・生徒・職員とも研修会の実施：1回以上 <p>○互いを尊重し、互いに成長する集団作りに努めます。</p> <p>○人間力の育成に努めます。(挨拶、返事、身だしなみ)</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を大切にし、互いの価値観を尊重する経験を増やす。 ・好感の持てる挨拶、返事、身だしなみを常に心がける。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「行事を頑張った」と回答する生徒80%以上。 ・「人間関係を大切にしたい」と回答する生徒95%以上。 | <p>(環境創造科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測量士・測量士補・2級土木施工管理技術検定の取得に取り組み、測量士に関しては、例年の合格者人数を大きく上回り15人の合格者を出すことができました。また、測量士補、2級土木施工に関しては、ともに卒業時には、ほぼ全員が取得することができました。 ・2年生を対象に外部講師による測量の授業を実施しました。 <p>(食物調理科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の推進、コンクールへの応募を行いました。製菓衛生師国家資格は受験者18人中17人が合格しました。応募したコンクールでは、ほとんどのコンクールにおいて入賞することができました。 ・辻調理・製菓専門学校から講師に来ていただき2年生対象に講習会を行い、専門性を高めました。また講習会には教員も参加し自身のレベルアップに繋げました。 ・地域イベントにも積極的に参加しました。 ・海外との交流も積極的に行い、スペイン人シェフの講習や韓国国際調理高校と交流実習を行いました。 <p>(全体として)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は全ての専門科が三重県産業教育フェアに参加し、取り組みの紹介やオリジナル商品の販売を行いました。また、生産経済科と食物調理科が連携して「うまいもの甲子園」、「和菓子甲子園」に出場しました。学科の枠を超えた取り組みを実施し、生徒同士の活発な交流ができました。なお、うまいもの甲子園は、全国大会準優勝。地域との連携について、生産経済科・食物調理科は積極的に実施できていますが、環境創造科は実施できませんでした。 ・生徒・職員の研修会は達成です。 <p>(生徒指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員による毎朝の交通安全及び挨拶運動や学年ごとの毎月の頭髪服装指導、頭髪を不必要に染色した生徒とピアス穴を開けた生徒に対する毎月の継続指導、日々の声かけ等を実施したものの、「挨拶・返事・身だしなみが十分にできた」と回答する生徒は64.7%にとどまりました。 ・11月のいじめ防止月間に人権委員で、いじめ防止を呼びかけるポスターを数種類作成し校内に掲示しました。また11月14日～18日の5日間、毎朝8時～8時25分の間、昇降口や正門で、人権委員、生徒会執行部、有志の生徒が挨拶運動を |
|---------------|--|--|

| | | |
|--|--|---|
| | <p>・「挨拶・返事・身だしなみが十分にできた」と回答する生徒 80%以上。</p> | <p>兼ねたいじめ防止の啓発活動を実施しました。生徒対象アンケートでは 98.7%が「人間関係を大切にした。」と回答しています。</p> <p>・6 月と 10 月に校外環境美化活動(地域のゴミ拾い)を実施しました。放課後にも関わらず自発的に参加した生徒は 6 月 31 人、10 月 33 人でした。学年別の参加者割合は 3 年 56%、2 年 38%、1 年 6%。周辺の道路や駅、バス停留場や公園のゴミを拾うことで公共心や公德心の醸成を促す行事となりました。</p> <p>・主な学校行事について「積極的に参加できた。どちらかといえば積極的に参加できた。」とする生徒は、1 年生 96.0%、2 年生は 95.7%、3 年生は 97.3%。「楽しめた。どちらかといえば楽しめた。」とする生徒は 1 年生 98.2% 2 年生 96.2% 3 年生 98.4%という結果で、コロナ禍であっても行事に積極的に参加し、楽しもうとする生徒の姿がうかがえます。</p> <p>(生徒会)</p> <p>・今年度 5 年ぶりに対面での生徒総会を実施しました。防寒着の着用ルールをはじめ、校則について、主体的に考える機会となりました。</p> <p>(1年生)</p> <p>・声かけや対話、面談などを通じ、社会性の伸長が図れるように接してきました。身だしなみについてはその都度注意してきましたが、結果は不十分であったと感じています。また一部人間関係を壊すような行動も見られたことが残念です。</p> <p>(3 年生)</p> <p>・遠足・体育祭・文化祭等の学校行事には全体的に欠席者も少なく、生徒たちはお互い協力して積極的に参加することができました。</p> <p>・挨拶は、ほとんどの生徒が気持ちよくできています。コロナの影響もあり、生活習慣の乱れから欠席や遅刻が増えた生徒が一部出ました。</p> |
|--|--|---|

改善課題

○学習指導

- ・ 毎年の課題ではあるが、家庭学習の時間が増えるよう習慣化させる必要がある。

○生徒指導

- ・ 問題行動回数の増加

○進路指導

- ・ 将来を見据えたキャリア教育の推進

○保健指導

- ・ 美化・衛生意識のさらなる向上

- 専門教育
 - ・総合高校ならではの学科間連携や地域や外部との連携の推進
- 社会性の伸長
 - ・挨拶・返事・身だしなみへの意識向上

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|--------------|---|---|----|
| 情報発信 | <p>○本校の特色ある学びを積極的に情報発信します。</p> <p>【活動指標】 ホームページの更新 月2回以上 学校説明会資料の改訂</p> <p>【成果指標】 募集定員の充足率 100%</p> | <p>・ホームページの更新を積極的に行いました。また、学校説明会資料の見直し、報道各社への資料提供など、積極的に本校の特色ある学びを情報発信しました。入学者選抜前期選抜での応募状況は昨年よりかなり回復しています。</p> | |
| 組織力の向上 | <p>○校内研修の実施により、教職員の資質能力を向上させるとともに、同僚性を育みます。</p> <p>【活動指標】 校内研修の実施</p> <p>【成果指標】 校内研修の内容に対する職員満足度 80%以上。</p> | <p>・ICTに関する研修2回、進路指導に関する研修3回、人権研修3回、保健研修1回、専門科研修1回、他教科を知る研修3回、授業力向上研修2回、コンプライアンス研修3回実施。95.7%の職員が満足・おおむね満足と回答しています。</p> | |
| 信頼される学校づくり | <p>○事例研究・研修等を通して、教職員のコンプライアンスに対する意識を高めます。</p> <p>【活動指標】 「信頼される学校であるための行動計画」を確実に実施します。</p> <p>【成果指標】 不適切事案の発生：ゼロ</p> | <p>・コンプライアンス研修、管理職などからの新聞記事などの情報提供、学年や分掌といった小集団でのディスカッションを年間をとして行ってきましたが、交通事故など不適切事案が発生しました。事案について職員に情報共有し、再発防止につなげました。</p> | |
| 働きやすい職場環境づくり | <p>○健康で働きやすい職場環境づくりのために、総勤務時間の縮減に取り組みます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日の定時退校実施率 97%以上 ・放課後に開催した会議が60分以内の割合 80%以上 ・行事の見直しや精選 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 90%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 (R3年度10人) ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数：0人 (R3年度85人) ・1人当たりの月平均時間外労働：8時間以下 (R3年度17.1時間) | <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日に定時退校できた教職員の割合：94.2% ・会議時間60分以内の実施率：68.5% ・予定通り休養日を設定できた部活動の割合：98.0% ・年360時間を超える人数：13人 ・月45時間を超える人数：5.67人/月 ・1人当たりの月平均時間外労働(全職種平均)：17.8時間 ・1人当たりの年間休暇取得日数：9.16日 (12月31日現在) <p>部活動休養日の実施以外、いずれの目標も達成できていません。</p> | ◎ |

| | | | |
|--|--------------------------------------|--|--|
| | ・1人当たりの年間休暇取得日数：12日以上 (R3年度9.18日) | | |
|--|--------------------------------------|--|--|

改善課題

- 情報発信
 - ・発信方法、報道提供方法のさらなる見直し
- 組織力の向上・信頼される学校づくり
 - ・教職員の資質能力の向上につながる教職員研修
- 働きやすい職場環境づくり
 - ・年間休暇取得日数の減少と時間外労働の増加

5 学校関係者評価

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>明らかになった 改善課題と次への 取組方向</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導 <ul style="list-style-type: none"> ・授業を大切にしている指標を作ってはどのようなでしょう。例えば、シンプルに「授業がわかる」と回答する生徒〇〇%。 ・毎年、家庭学習が課題なっていますが、その結果として、学習時間を数値評価して前年度より増になったとあります。評価の指標として数値が使われるのは理解するのですが、生徒たちの家庭学習を増やすために、教員が何を指示、提示できたか（例えば、家庭学習の仕方、教材の提示、提供など）を総括できるとよいと思います。例えば、単に宿題を増やすということではなく、今日の授業から次の授業までに家庭でできる勉強について、授業時間内に生徒たちにどう伝えよとか・・・ ・学習活動は学校教育活動の核となる部分です。様々な活動や指標をまとめてもらっていますが、それらの取組の結果で生徒の学習姿勢がどのように変わったか、先生方のような取組で効果があったのか等も具体的に検証していただくと更にわかりやすくなる感じました。 ・公開授業の成果を入れてもらおうとよいと思いました。 ○進路指導 <ul style="list-style-type: none"> ・普通科のキャリア教育は前年度の課題になっています。校長先生の言われた、他校とは違う職業学科のある「相可高校」の普通科の特色を、生徒募集の段階からPRし、入学後のキャリア教育に繋げていくことができたらどうかと思います。 （既に実践されているとは思いますが、例えば、職業3学科が行っている職業教育を校内でもっと知る機会をつくるか、普通科の場合、進学希望が多いのでその進学後の職業選択の幅を知る機会を多く作るか。） ○社会性の伸長 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの回収率がもう少し上がるといい感じました。また、情報機器のアンケート機能とペーパーでのアンケートを比較して、どちらが高い回収率になっているのかも気になりました。 ○専門教育 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が少し落ち着き、生徒たちの活動は戻ってきたようですが、前年度の課題にもあった、教員の専門性と育成するという課題の結果はどうなっていますか。勤務時間の縮減がなかなか実現できない、予算の削減もあり、という実情の中で、難しいことだとは思いますが、必要ではないかと思っています。 ○情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な取り組みの結果、昨年度より入学志願者数がずいぶん増えていてよかったです。 ○働きやすい職場環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・部活動を地域移行化できるといいですが、現行では働き方改革は難しいと思います。 ・一部部活動を地域移行するという話が進んでいません。 ・調理部はすでにまごの店で活動しています。これを地域の指導者がフォローできれば、モデルケースになる可能性があります。民間が受け入れてくれるように今後も多気町と |
|--------------------------------------|---|

| | |
|--|--|
| | <p>して支援していきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校と高校では部活動に求められているものが違うと思います。部活動にもよりますが、高校ではより強くなる、勝つことが求められています。しかし、強くなると入部を希望する生徒が減る傾向にあります。生涯体育と考えた場合、高校から部活動を始めることが難しいのはどうかと思います。中学校では部活動に対する教職員の意識が変わってきています。生徒と顧問の健康を保つためにも部活動ガイドラインを守ろうと考えています。部活動と生徒の自主練習とを組み合わせることで確実に変化しています。高校はどこまで部活動ガイドラインが守られていますか。 ・定時退校率が高い数値で驚きました。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介 DVD で「生徒と先生の距離が近い」との発言がありました。相可高校特有のものかわかりませんが、先生との距離が近いことは生徒が安心してきてよいと思います。この点は中学校へのアピールポイントなると思います。 ・「普通科」の目指すものが他学科に比べて明確でないことについて、普通科の先生方で話し合ってみてはいかがでしょうか。教科代表者で話し合う、オフサイトミーティング等。 |
|--|--|

6 次年度に向けた改善策

| | |
|--------------|---|
| 教育活動についての改善策 | <p>○普通科改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業に関する学科生徒に加え、普通科の就職希望者も「高校生と地元企業との交流会」に参加させます。また、職業分野別ガイダンスを1・2年生対象に行います。 ・今年度は普通科（5 教科＋体育科）の教員が集まり、普通科の課題と魅力について検討を始めました。また、本校と同じような状況の普通科の先進的な取り組みを視察しました。このような取り組みを来年度は恒常的に行う予定です。他の進学校や私立高校と差別化を図り、地域密着型普通科として思い切った改革をすすめます。中学生や在校生が、相可高校普通科に入ると何ができるのか、何ができるようになったのか、はっきりと理解できるようなPRが必要です。 ・「他学科の特色ある学びを知る時間」を学習成果発表会時に確保します。 <p>○いじめアンケート</p> <p>いじめアンケートの回答率を上げるため、回答を促す呼びかけの増加、回答期間の延長をします。</p> <p>○専門教育</p> <p>教員の専門性の確保のため、今年度同様、教員が個々に参加、学科全体で参加、生徒が受講する講座に教員も一緒に参加するなど、研修の機会を多く準備します。</p> |
| 学校運営についての改善策 | <p>○働き方改革と部活動</p> <p>部活動ガイドラインを守ったうえで、外部指導者の活用や顧問の複数配置により過重労働時間の削減を目指します。部活動の地域移行については引き続き多気町と相談しながら方法を模索します。特に「まごの店」の運営は、クラブ活動として行っていますが、教育課程の延長線上に位置づけられる部活動であり、学科の取組との関係性も深いです。活動内容について、日程や内容等、日常の授業と調整しながら活動をすすめます。</p> <p>○教職員の資質向上</p> <p>授業公開週間における互見授業を活用し、授業力向上につなげます。成果指標には、毎年生徒アンケートでとっている、「授業のわかりやすさ」を用います。</p> <p>また、生徒と教職員の距離が近いことで生徒が安心して学べることは、教職員がこまめな指導を行っていることに他なりません。今後も探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、生徒一人ひとりの学びを最大限に引き出せるよう研修の機会を充実していきます。</p> |